

# 海からのメッセージ

## ～ 「カヌーと野炊とテントと私」 ～

- 趣 旨 鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、海の良さを知り、「生きる力」を育む。また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 期 日 令和3年8月6日（金）～11日（水） 5泊6日
- 参加対象 小学5・6年生、中学生、高校生
- 募集定員 20人
- 参加者 18人（小学生11人、中学生7人）
- 指導者 外部指導員4人 国立大隅青少年自然の家6人 ボランティア5人
- 日 程 【全行程（約30km）をカヌーで実施】

日 時	活 動 内 容	活動(宿泊)場所
8月 6日（金）	開講式, アイスブレイク, カヌー練習	新城海の家
8月 7日（土）	新城～荒平天神～浜田海水浴場	新城海の家
8月 8日（日）	クラフト活動, クライミング	新城海の家 自然の家本館
8月 9日（月）	鹿屋体大海洋スポーツセンター（SUP, 海浜観察, ロープワーク等）	鹿屋体大海洋SC 新城海の家
8月10日（火）	浜田海水浴場～知林ヶ島	新城海の家
8月11日（水）	片付け, まとめ, 閉講式	新城海の家

### 8 事業の企画・運営

- （1） 昨年度までのコースを一新し、「鹿屋体育大学海洋スポーツセンター」での海洋体験学習は取り入れ、実践研究と兼ね、挑戦・協力・体験の3つを今回のテーマとした。
- （2） ルート設定後、職員の実地踏査や外部指導員と検討を重ね、危険箇所の確認を十分に行った。
- （3） 18人の参加者を6人×3班の編成とした。監視艇及び救助艇3艇での監視、マイクロバス1台での移動を可能にしたことで参加者の安全面に十分配慮した。
- （4） 鹿屋市、垂水市、指宿市や関係機関（海上保安部、喜入海上保安署、指宿海上保安署、漁業協同組合、警察署、消防署）と連携を密にし、活動中の安全対策を万全にした。
- （5） 昨年度にならい、全日程、新城海の家を宿泊場所にしたことで野外炊飯を食事のメニューに入れることができた。

### 9 事業の実際

1日目（6日）に開講式を行った。アイスブレイク後、翌日からの荒天を考慮し、急遽、カヌーの操作や乗り降り、沈、再乗艇、曳航の確認などの練習を取り入れた。その後の野外炊飯に時間がずれ込んだが、カヌーの経験をさせる上でも1日目に練習の時間を入れ、したのはよかった。野外炊飯もスムーズに行えた。

2日目（7日）は、晴天で海の状態もよく、新城海の家から荒平天神そして海洋スポーツセンターまでを



計画していたが、次の日の天候を考え浜田海水浴場まで漕ぐ形をとった。残念ながら一人発熱で帰宅することになったが、その他17人は約10kmを漕破することができた。

3日目(8日)は、台風の影響で海に出ることができなかった。朝食後、本館に行き、午前中は革細工、午後からは、遊びリンピックとスポーツライミングを行った。その間、スタッフでテントを海浜観察室に運び入れ、宿泊場所にした。雨風が激しかったが、何事もなく海の家で過ごすことができた。

4日目(9日)は、朝からまだ少し台風の影響で波が高かった。海洋スポーツセンターに移動し、雨天プログラムを準備していただいた。午前中は、ロープワークやカヌーの説明等、海以外でできる活動を行い、午後は海の状態を見てSUPを行った。計画していたヨットでの活動はできず残念だったが、SUPだけでも海浜活動ができたのはよかった。

5日目(10日)は、天気も回復し、知林ヶ島に浜田海水浴場から挑むことにした。朝食も野外炊飯はせず弁当で済ませ、できるだけはやく浜田海水浴場から出発することとした。今年度は事業開始時の台風の影響で蒼天丸でなくトルネードでの救助となったのでトイレがない等の指導を事前に徹底した。当初、台風の影響がほとんどない凧の状態でのカヌー槽航だったが、11時頃から風が出てきだし、最後は知林ヶ島を目の前に曳航される形となった。

挑んだ参加者全てが知林ヶ島にたどり着くことができ、ホッとする安堵感と達成感があつた。参加者も自然の雄大さと怖さを垣間見る活動であつたと思う。

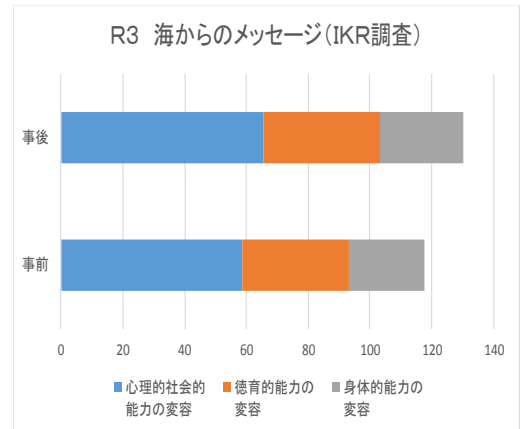
6日目(11日)は、テントの撤収や荷物整理、カヌーを始めカヌー艇庫の掃除、これまでの反省等を行った。昨年度は十分にカヌーの片付け等が行えなかったもので、最後にきちんと後片付けまでできたのでよかった。その後、これまでの反省やこれからの目標についてボランティアを中心に班活動を行った。お世話になったボランティアとも最後にいろいろな話ができてよかったようである。閉講式ではスタッフもそれぞれ話す場を設定し感想を語ってもらった。それぞれの思いも語れてよかったと思う。





## 10 アンケート結果（参加者 I K Rアンケート）

全体的（生きる力の変容）を見ると、事前から事後にかけて12.6ポイント向上し、有意差が見られた。項目別に見ると「洗濯機でなくても手で洗濯できる」で1.06p、「その場にふさわしい行動ができる」で0.82p、「自分で問題点や課題を見つけることができる」で0.82p上昇するなど全ての項目で事前と事後とで意識の向上が見られた。これは、5泊6日という長期宿泊体験を通して、友だちと協力し、コミュニケーションを取ることの大切さを学んだこと、普段の生活から離れ、自分自身を見つめる時間が多くあったこと、自己の課題を発見し、それに対してどう対応するべきか考えることができたことなどが要因ではないかと思われる。スマホやゲーム、SNSなどに囲まれた生活から、しばらく離れた生活をしたことで人との関わりが増え、自己肯定感も高まったのではないかと考えられる。



	心理的社会的能力の変容	徳育的能力の変容	身体的能力の変容
事前	58.6	34.6	24.5
事後	65.4	37.8	27.1

## 11 参加者・保護者の事業後の感想

### (1) 参加者の感想

- ・カヌーはペアの人と声をかけ合いながら漕ぐことができた。知林ヶ島に渡るのは大変だったけど、協力してできたのでよかったです。
- ・初めて長い期間、家を離れて過ごしました。楽しく6日間を乗り着ることができました。自分の自信につながればと思っています。
- ・きついこともあったけど、カヌーやサップ、テント泊や野外炊飯などたくさんの経験ができました。ありがとうございました。
- ・貴重な体験ありがとうございました。
- ・とても楽しくて充実していたので、また同じメンバーで集まりたい気持ちでいっぱいです。6日間、ありがとうございました。また何か新しいことに挑戦してみたいです。参加させていただきありがとうございました。

### (2) 保護者の感想

- ・貴重な経験をさせていただきありがとうございました。カヌーだけでなく、野外での活動などいろいろな経験をすることができ、喜んでおります。目を輝かせて出来事を話してくれたことにうれしく思いました。
- ・5泊6日という長い期間、親元を離れて生活するのは初めてでした。両親の不安に反してとても楽しかった様子で本人の自信につながったようです。
- ・あまり親に頼らず、「自分のことは自分でやる。」という気持ちが芽生えたように思います。成長してくれたことをうれしく思います。久しぶりに会った時にはたくましく感じました。ありがとうございました。

## 12 成果と課題（○成果 ●課題）

- 今年度は、カヌー挑戦に加え錦江湾横断、鹿屋体育大学海洋スポーツセンターでの体験活動を取り入れた。さまざまな面から海からのメッセージを感じさせるといったプログラムはよかった。
- 体大からの実習生や法人ボランティアの方々の活躍があり、目的地の知林ヶ島に到達することができた。